

私達は何を手がかりとして生きていくのだろうか



ドキュメンタリー映画 (2011年制作)

かすかな光へ

監督: 森康行 詩・朗読: 谷川俊太郎 音楽: 林光 ナレーション: 山根基世

上映会 & 分かち合い

上映会後に岡山旭東病院病院長 土井章弘氏、精神科医 山本昌知氏による講演
-映画との出会いについて- & 皆様との感想交流会があります。

”「違っていいんだよ」じゃなく「違う」んです”

日本の社会と人間を見つめ、教育のあり方を問い続けてきた日本の教育研究者 大田堯氏。
その軌跡と奇跡を追ったドキュメンタリー映画「かすかな光へ」(2011年制作)の上映会を
岡山旭東病院にて開催します。

今年の3月に100歳を迎えられた大田氏が93歳の時に制作された映画です。



土井章弘



山本昌知

2018年10月21日(日) 13:00 (12:30開場)~16:00

会場: 岡山旭東病院 パッチ・アダムスホール

(岡山市中区倉田567-1)

入場料: 事前申し込み800円・当日1000円

お申し込み先: メール hitonaru@red.megaegg.ne.jp
: 電話 (090)-4691-4326 (土井)
: FAX (086)-241-5883 (土井)

メール、FAXにはお名前、ご連絡先、
希望枚数を明記の上、お申し込み下さい。
チケットは当日お渡しします。

主催: ひとなる岡山 共催: 岡山旭東病院

後援: 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会 倉敷市教育委員会 山陽新聞社 TSCテレビせとうち 岡山県中小企業家同友会

ドキュメンタリー映画「かすかな光へ」上映会

生きるとは、学ぶとは— 93歳、夢と憧れを語る

題名の「かすかな光へ」は谷川俊太郎の同名の詩から名づけられた。また、この詩の朗読は詩人自ら行っている。



「かすかな光へ」 谷川俊太郎 (一部抜粋)

子どもは意味なく駆け出して
つまずきころび泣きわめく
にじむ血に誰のせいにもできぬ痛みに
すでに学びがかくれていて
子どもはけろりと泣きやんでいる
私たちが知りたがる動物だ
たとえ理由は何ひとつなくても
何の役に立たなくても知りたがり
どこまでも闇を手探りし問いつけ
かすかな光へと歩む道の疲れを
喜びに変える

老人は五感のもたらす喜怒哀楽に学んできた
際限のない言葉の列に学んできた
そしていま自分の無知に学んでいる
世界とおのが心の限りない広さ深さを

〈大田堯（おおたたくし）プロフィール〉
1918年生。教育研究者(教育史・教育哲学)。
広島県出身。東京大学名誉教授、都留文科大学名誉教授。日本子どもを守る会名誉会長。東京帝国大学文学部教育学科卒業。東京大学教育学部・大学院教育学研究科教授、日本子どもを守る会会長、都留文科大学学長、日本教育学会会長などを歴任。
◇主な著書:「かすかな光へと歩む」(一ツ橋書房)、「教育の探求」(東京大学出版会)、「教育とは何か」(岩波新書)、「地域の中で教育を問う」(新評論)、「子は天からの授かりもの」(太郎次郎社)、「生命のきずな」(偕成社)、「百歳の遺言」(藤原書店)ほか多数。



story

挫折したエリート

東京帝国大学に進学し、学習一筋で生きてきた大田が一兵卒として体験した戦争。そこで待っていたのは36時間の生と死が交錯した漂流。生きる力を試されたジャングル生活。生活に根ざした知恵と力を身につけた農民兵、漁民兵などの労働者との出会い。ズブズブにされたプライド。「俺は一体、何のために生きているんだ！」

再生へ

敗戦直後、さまざまな職業の住民参加の中で取り組んだ“民衆の学校”づくりとその挫折。そして、自ら働く人たちのなかに飛び込んでいった共同学習—それは村の「不良青年」と生活を共にし、学ぶことを通して、初めて心と心が通った学習体験だった。

無縁社会と呼ばれるなかで

社会も教育の姿もガラリと変わった高度経済成長時代。大田堯の人生は戦後と真正面から向かい合っていく。その中でつかった教育とは、「教え育てる」という従来の教育観を根底から覆すものだった。そして大田は今、自然の摂理にそった生命あるものの絆の再生をめざす。

○当日のプログラム

第1部：13:00～14:30
「かすかな光へ」上映会

—休憩〈10分間〉—

第2部：14:40～15:40
・土井章弘氏、山本昌知氏による講演
(映画との出会いを語る)
・感想交流会